

ニュータウン分科会からの報告資料

国土交通省 都市局

令和3年1月25日

今年度及び今後の検討方針

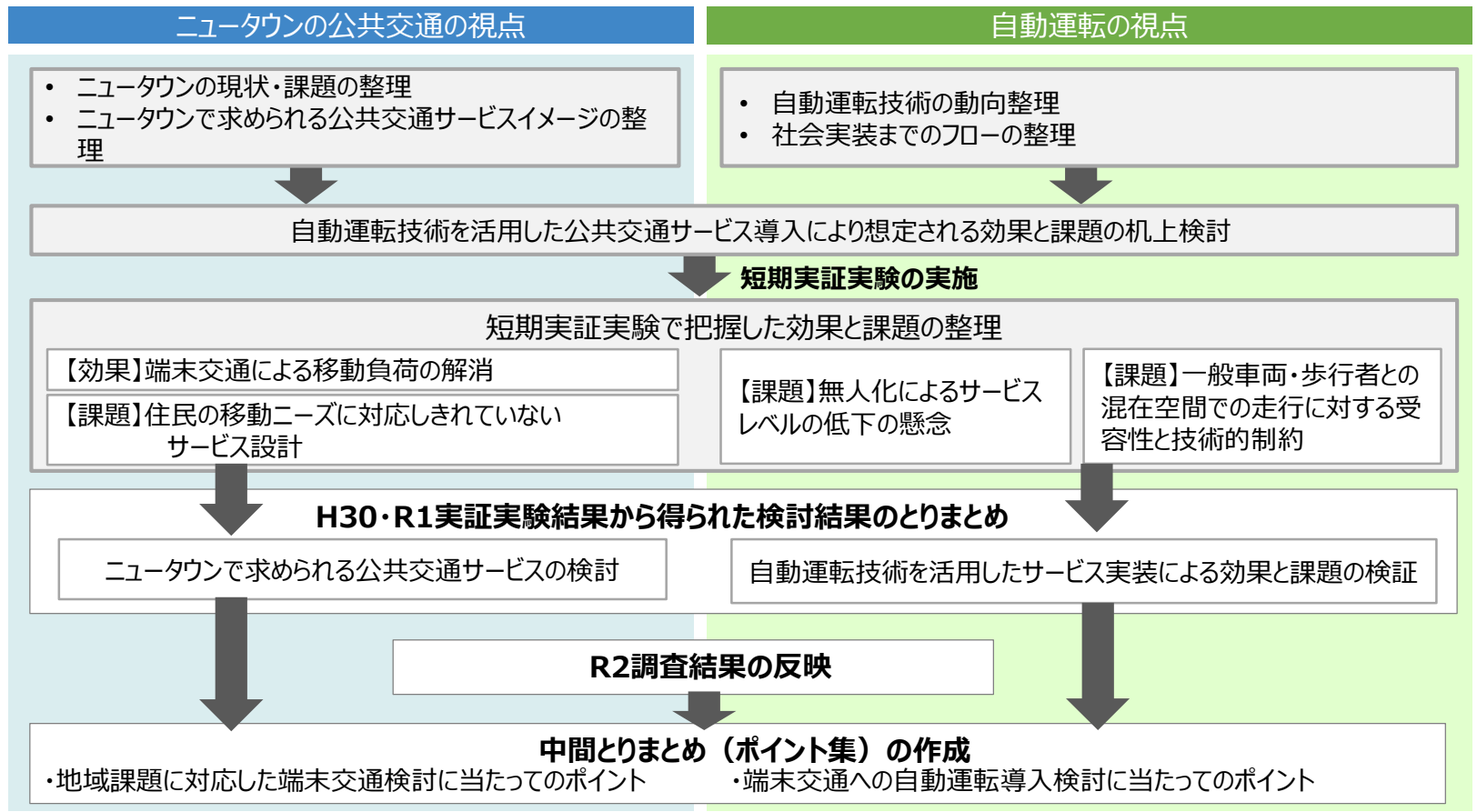
- 令和元年度のアンケート調査結果を基に、ニュータウンにおける公共交通サービスについて、公共交通の視点と自動運転の視点に分類して検討を行う。
- また今後のニュータウンにおける端末交通検討及び端末交通への自動運転技術の活用に向けて、中間とりまとめ（ポイント集）の作成を行う。

＜ニュータウンにおける自動運転技術の活用方策の検討フロー＞

NT
分
科
会

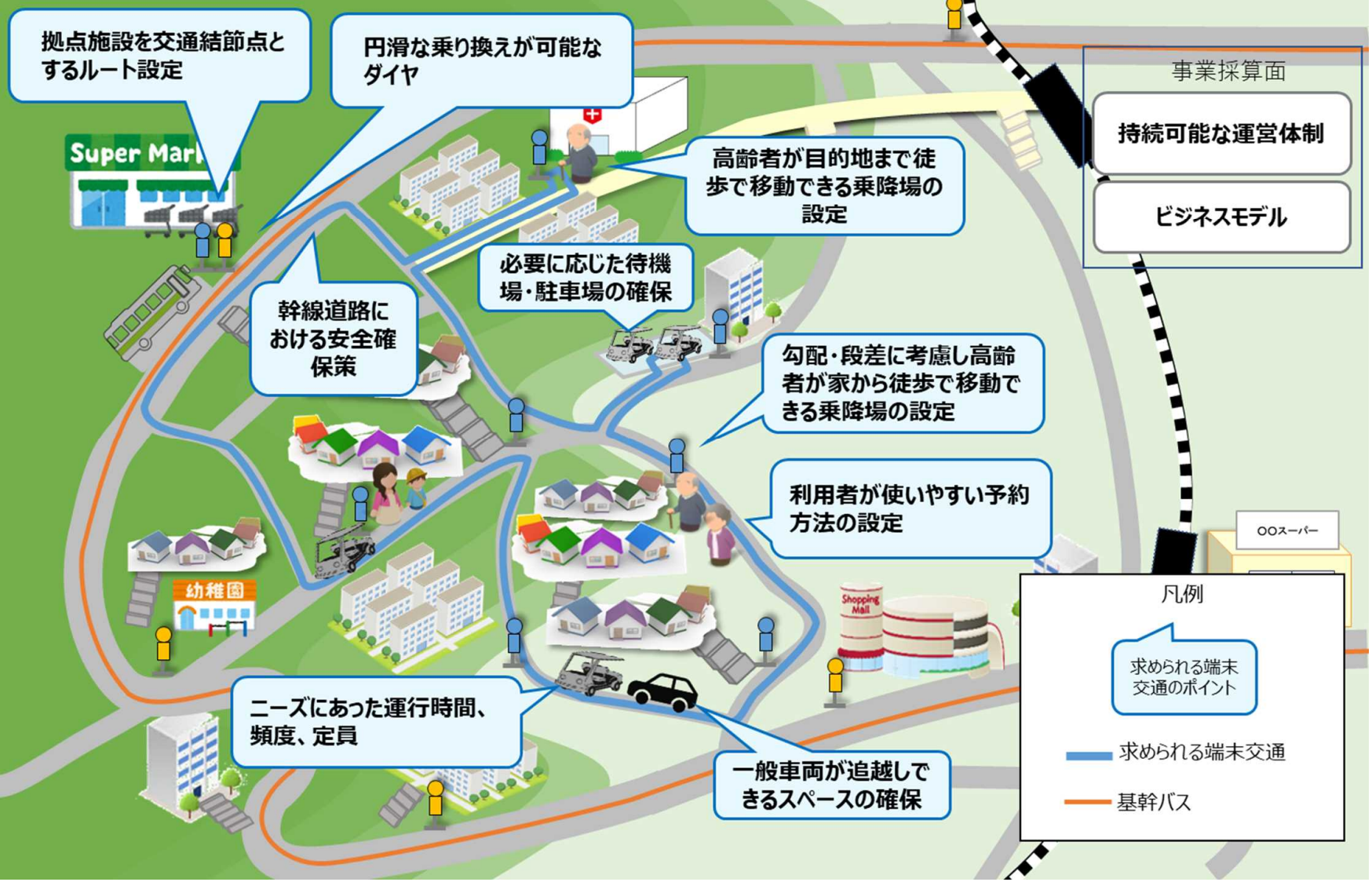
過
年
度

令
和
2
年
度



移動ニーズを踏まえた求められる公共交通サービスのイメージ

○移動ニーズを踏まえた求められる公共交通サービスのイメージについて下記に示す。



自動運転技術活用における課題と解決への方向性

- 自動運転車両や低速走行車両を使用した実証実験の結果より、現時点で自動運転技術を端末交通に活用した場合に想定される課題を整理した。
- 自動運転活用により生じる課題は自動運転技術の進展に伴い解決するものだけではないため、継続して検討することが必要。

観点	課題	解決への方向性
1.運用面	<ul style="list-style-type: none"> 路上の駐停車車両等に対する円滑な走行 	<ul style="list-style-type: none"> 走行ルートにおける自動運転車両専用又は優先空間の確保 速度的に親和性のある歩行者専用空間（ペDESTリアンデッキ等）の活用検討 インフラ協調、路車連携等の検討
	<ul style="list-style-type: none"> 歩道未整備の生活道路における歩行者や自転車との交錯に対する円滑な走行 	
	<ul style="list-style-type: none"> 無人化における高齢者等への介助、サポート 	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔監視等の状況把握、対応できる仕組みの構築検討 必要なサービスに対応した車両、技術等による対応検討
	<ul style="list-style-type: none"> 無人化におけるトラブル発生時（乗客、車両）の対応 	
2.事業採算面	<ul style="list-style-type: none"> 現行制度では監視・操作者（遠隔含む）の配置が必要である等大幅な人件費減が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 法制度や技術レベル、車両コスト等に対応した持続可能な運営体制 MaaS等の基幹交通との連携 地元商業施設協賛金等の導入検討
3.社会受容面	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車両に乗車することに対する受容性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車両の走行実証事例を継続して行うことによる、利用者及び非利用者の受容性の向上 都市部における無人小型モビリティの相乗りに対する受容性の向上
	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車両が一般交通と混在することに対する受容性の向上 	

- これまで、ニュータウンの移動課題の解決を目的に、実証実験等により、地域の移動ニーズの把握、サービス導入検討を行い、自動運転技術の活用について検討してきた。
- 特に、技術動向や、社会環境から、低速での端末交通に着目してきた。
- 現状では、自動運転技術を活用したニュータウンの課題解決に直結する移動サービスの実現にはまだ多くの課題が残されている一方、移動課題の解決は喫緊の問題でもある。

- 今回の検討では、自動運転技術の導入に向けては、
 - ① **移動ニーズを前提とした、交通サービス（端末交通）の検討**
 - ② **自動運転技術を前提とした、交通サービス（端末交通）の実現可能性、メリット・デメリット、社会受容性の検討**を丁寧に分けて、検討することの重要性が改めて示された。
- 今後、自動運転技術の実証実験のみならず、広くニュータウンにおける移動課題の解決に向けた検討に活用してもらうことを目的に、これまでの検討の中間とりまとめを行う。
- 中間とりまとめでは、検討事例を示すことで、移動課題解決に向けた検討に活用可能なポイントを示す。

1. はじめに

ニュータウンの特徴、端末交通に着目した経緯

2. 端末交通導入の効果

外出促進効果、公共交通利用促進効果

3. 端末交通導入に向けた検討のポイント

(1) サービス

ニーズに適したサービス範囲・ルート設定、ルートに適した車両選定
地域の地形に応じた乗降場の設定
買い物客や交通弱者への対応、運行・予約方法

(2) インフラ

地区の基幹バス等との連携のための交通結節点
端末交通に適した車両保管箇所
追い越し対応及び停留所整備

(3) 持続可能な運営体制の構築

組織づくり、基幹交通や商業施設との連携等による事業採算性確保

4. 端末交通への自動運転技術導入に向けた検討のポイント

自動運転導入においてポイントごとの留意すべき点

5. さいごに

歩行者空間活用示唆、ニュータウン再生施策との連携